

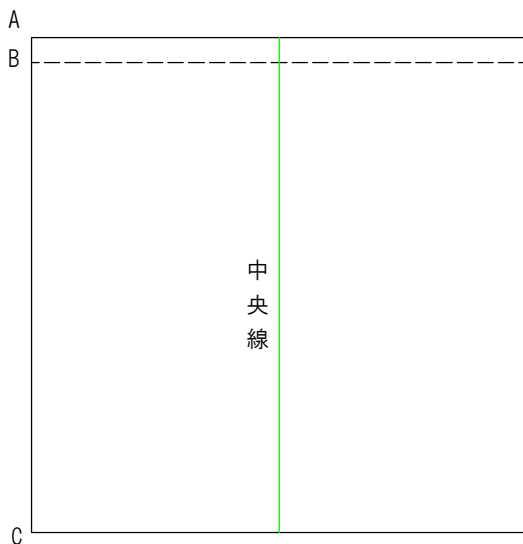
F-4 ファントム II

by KOMINAMI Hiroshi
初作時期 昭和51(1976)年頃

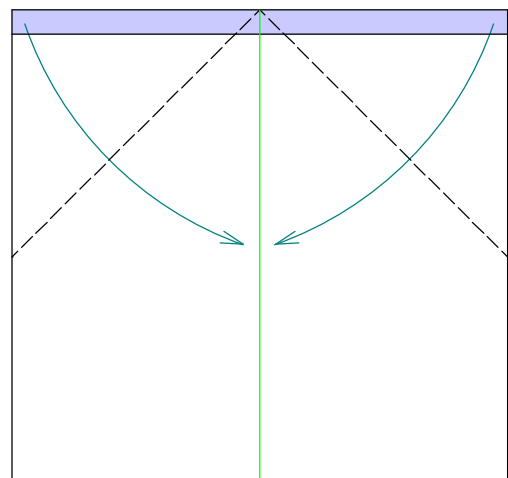
これは私が小学校低学年のときに作った最初の創作折り紙です。昔ながらの折り紙飛行機に多少手を加えただけですが、操縦席と垂直尾翼が主翼の上であり、主翼の位置も相対的に後退して、本物のジェット機に似た形になりました。どことなく、当時の航空自衛隊の主力戦闘機F-4を連想させ、友人たちからも好評を博しました。今となってはずいぶん稚拙なスタイルです。

工程[1]での折返しの幅、[4]での折目の角度、そして最終的な重心の微調整などによってプロポーションも性能（飛行特性）もかなり変化しますので、いろいろ試してみてください。完成後は機体を前から見て左右で翼のねじれがないかチェックしてから試験飛行します。あまり頑丈な機体ではない（紙の重なりが少ない）のでねじれ易いことに注意してください。紙は市販の折紙（一辺15~20センチ前後）が良いです。

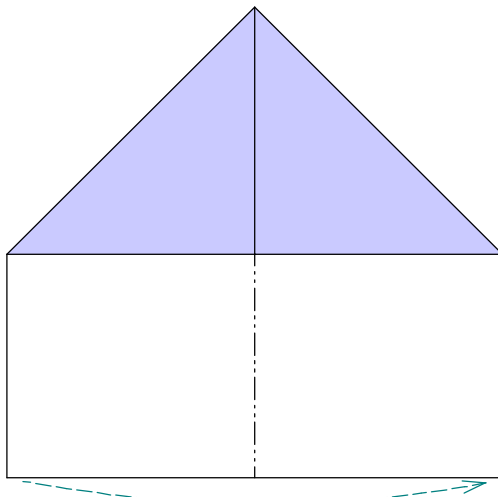
※ 細かい寸法や比率には、あまりこだわらなくてもよく、長方形の紙を用いても構いません。



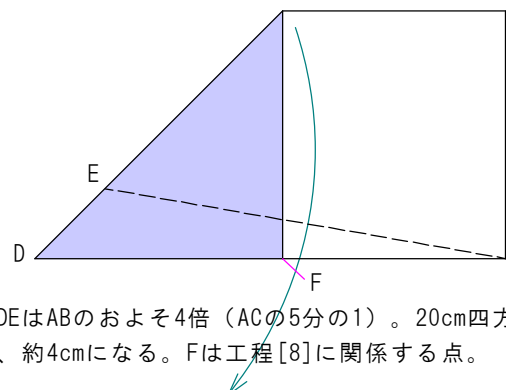
[1] 正方形の紙を使う。一辺の長さ (= AC) の約20分の1 (20cm四方の紙なら約1cm) だけ機首部を折返す。AB : AC \approx 1 : 20



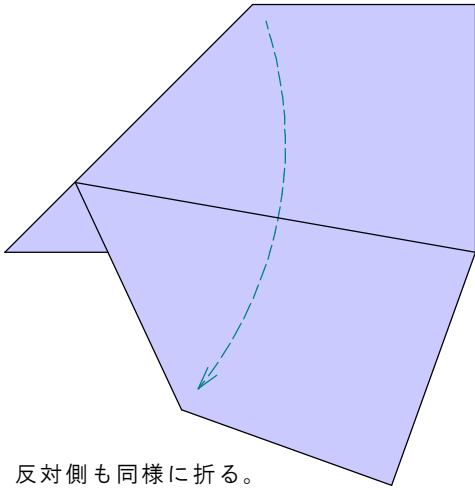
[2]



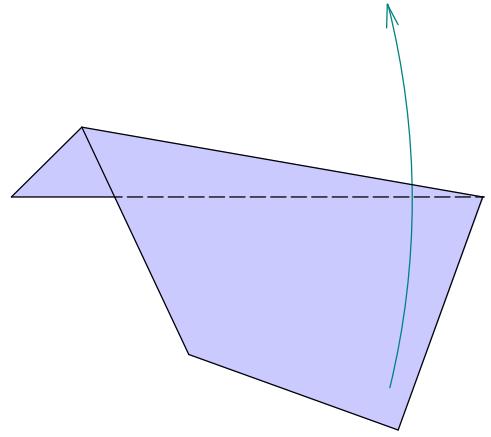
[3] 背中合わせにする。



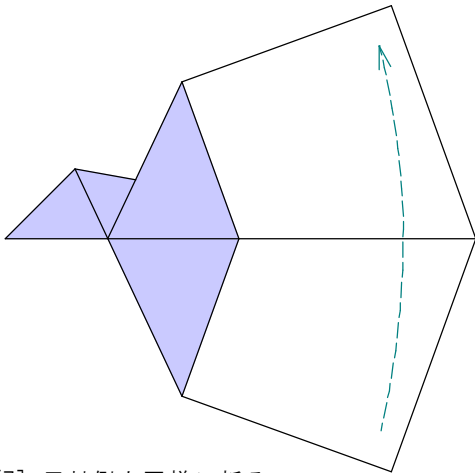
[4] DEはABのおよそ4倍 (ACの5分の1)。20cm四方の紙なら、約4cmになる。Fは工程[8]に関係する点。



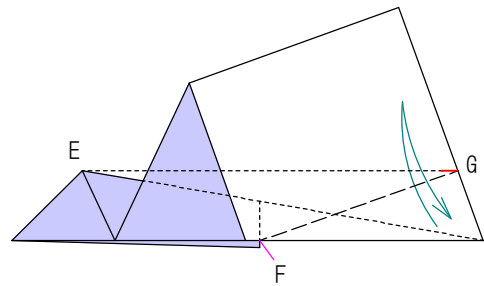
[5] 反対側も同様に折る。



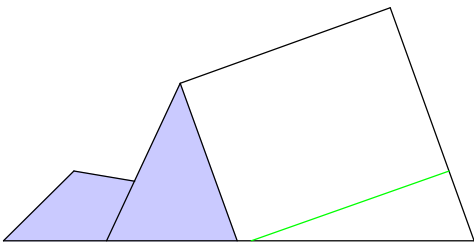
[6] 胴体下面（中央線）に沿って翼を折上げる。



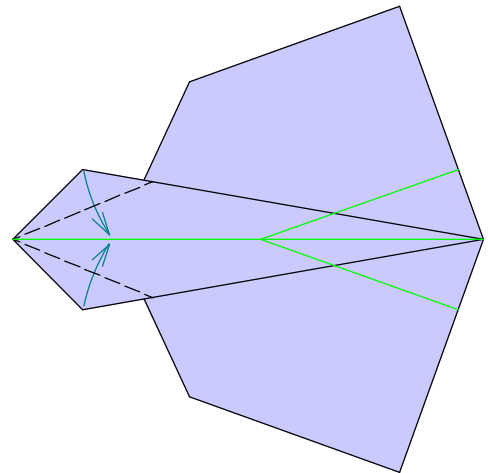
[7] 反対側も同様に折る。



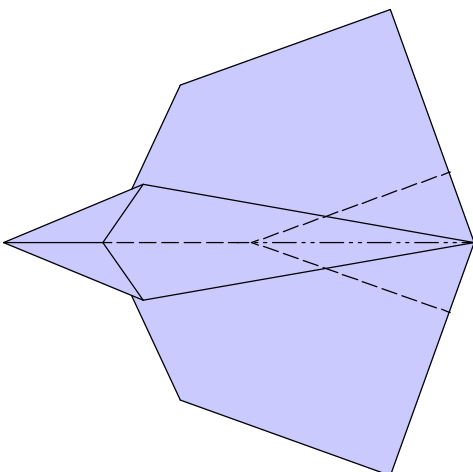
[8] Eから中央線に平行な線を後方に延ばす。翼の後縁との交点に印Gをつけ、FGに折目をつける。



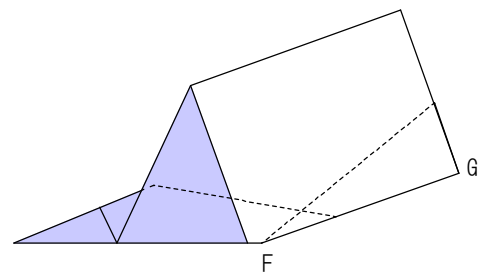
[9] 胴体の背中側を開く。



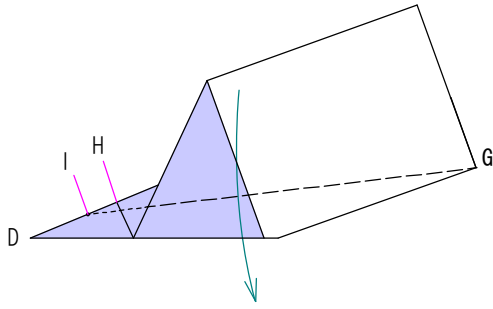
[10] 機首を尖らせる。



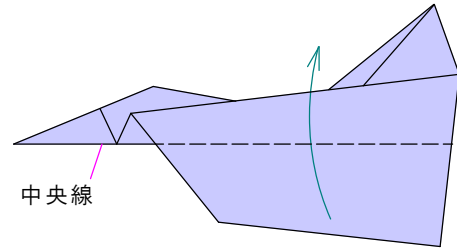
[11] 再び背中を閉じる。同時に、[8]でつけた折目で垂直尾翼を引出す。



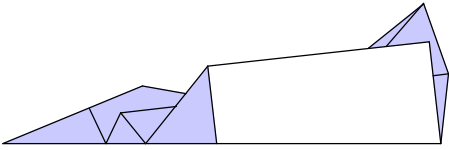
[12] [11]の結果の図。



[13] $HI : HD \approx 1 : 3$ となる点Iを決めIとGを結ぶ線で翼を折下げる。以下、左右同様に折る。



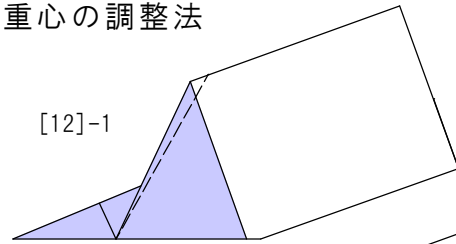
[14] 中央線に沿って翼を折上げる。
この線より内側を内翼、外側を外翼とする。



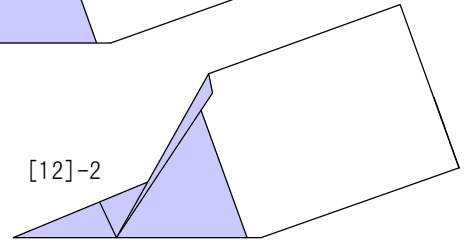
[15] 三面図を参考に、内翼に約 45° の下反角をつける。
外翼は水平、又はやや上向きとする。これで完成。

重心の調整法

[12]-1



[12]-2



重心が後ろ過ぎるとき（飛ばすと機首が上がって失速しやすい）は工程[12]で主翼の前縁を少し折り返す。
これで格好も飛び方もシャープになるが、滑空性能が低下しかねないので、少しずつ調整して下さい。

F-4 ファントムⅡ 三面図

